

酒造業、養蚕業、県会議員、
相馬織物会社設置、小高銀行
設立、富岡夜ノ森農園開拓
着手、衆議院議員、小高銀砂
工場設立…

「東北独立」をめざして、あら
ゆることに力を尽くした人。

生誕160年

はん が い せい じゅ

半谷清壽展

～東北独立にかけた思い～

8月11日(土・祝)

～10月7日(日)



記念講演 ―〈入場無料〉―

2018年9月22日(土)14時～16時
浮舟文化会館 研修室

「小高が生んだ偉大な警世家・半谷清壽」

柴田 哲雄氏 (愛知学院大学 准教授)

植谷島尾記念文学資料館

〒979-2124 福島県南相馬市小高区本町二丁目 89-1 (浮舟文化会館内)

電話 0244-66-1011

URL : <http://www.city.minamisoma.lg.jp/index.cfm/32.html>

E-mail : bungakushiryokan@city.minamisoma.lg.jp



交通のご案内

- ◎JR利用
JR常磐線小高駅下車、
徒歩10分
- ◎乗用車利用
国道6号線大井交差点
から2分
- ◎常磐自動車道利用
南相馬ICから約35分
浪江ICから約30分

半谷清壽のエピソード

「火の祭り」の創設

相馬野馬追の中日に小高区で行われる「火の祭り」は、半谷清壽が1892（明治25）年に考案したものです。雲雀ヶ原から騎馬行列が帰るころ、人々は沿道に松明を焚き、慰労の意を表していたことをヒントに祭りの気分をより一層盛り上げるために行いました。

小高神社から見渡せる丘陵やあぜ道に灯油を入れたホッキ貝を棒にぶら下げて並べ、行列が小高神社へと到着したのを合図に、数百発の爆竹や花火を打ち上げたそうです。

この「火の祭り」は、現在も小高の夏の風物詩として親しまれています。

富岡町夜の森公園の桜並木

半谷清壽が、1901（明治34）年に夜の森農園の開拓に着手したことを記念して、300本の桜を植樹したことが始まりとされています。

富岡町で管理しているこの桜並木は、緑の文化財登録第12号に指定されています。

■記念講演 講師紹介



柴田 哲雄氏

昭和44年2月、名古屋市生まれ。

平成13年3月、京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程単位取得退学

平成14年4月、愛知学院大学教養部・専任講師

平成20年2月、同上・准教授（現在に至る）

大学院時代に中国・華東師範大学で留学、愛知学院大学勤務後に米国・コロンビア大学で在外研修。

専門は日本と中国の近現代史。

主著は、『協力・抵抗・沈黙：汪精衛南京政府のイデオロギーに対する比較的アプローチ』（成文堂、2009年）、『中国民主化・民族運動の現在：海外諸団体の動向』（集広舎、2011年）、『習近平の政治思想形成』（彩流社、2016年）がある。